昭和53年4 群 馬 県 山 群馬県前橋市大手町 者 3-1111 群馬県観 集柳 編辺橋 連 委 責任者 (有) Щ 印 1 部 50円 禁されるだろうとの情報が伝えら 期を一九七八年秋ときめて、岳連 れていた、ギャチュンカン峰に目 私達は、これを断念して、近々解 費用がかかりすぎることなどから 経験者が未だ少ないと云いことや のバインター・ブラックの周辺に 秋からである。当初、カラコルム うにおりず、一九七七年十月、私 ラヤ登山隊が発足することになっ 及んで、ここに正式の群馬県ヒマ の理事会及び総会の承認を得るに 南西稜よりダイレクトに頂上に至 標を変更していった。ただちに、 うとしていた。しかしこの山域の 偵察隊を送り、その計画を進めよ 計画を始めたのは、一九七五年の ルへと向ったのである。 ネパール政府の登山許可はいっこ すすめられていったのであるが、 通しの有無と、登山許可の諾否と ねて、ギャチュンカン峰解禁の見 と宮崎勉の両名は、偵察行をも兼 私達が、今回のヒマラヤ遠征の 直接たしかめるべく、ネパー 未登のルートが計画され、時)かし、ネパール政府登山局長 計画は着々と

とにした。ギャチュンカン断念後

り、そこより南東稜東側の偵察の

越えて、カリガンダキ河底まで下 次に四二〇〇米の南東稜のコルを

ため五二〇〇米まで試登した。

すめている。

私も、谷川岳と云う日本有数の

同、順調に、張り切って準備をす

の登山許可の通知があり、隊員一

登山局)より、待ちに待った正式

幸い、先日ネパール観光省(前

ミヤマ 太田 ミヤマ

観的なものではない。私達が選ん

偵察の結果は、卒直に云って楽

だ南東稜は、過去、フランス隊が

回試登し、アメリカ隊が二度攻

カラよりキャラバンをはじめるこ ラギリI峰を偵察するために、ボ 決定的な宣告であった。 いと云う、正式な文書を添えての

ルートと同じ北東稜であった。

十一月十日、私達二人は、ダウ

内院に入り、南壁の偵察を行ない

ーラを経てダウラギリI峰南壁の

私達のキャラバンは、ツロ・コ

わかれて、攻撃をかける計画であ

十日の間に、三パーティが三波に

登山隊員については、実行委員

ネパール政府内務省は、当分の間 きびしい回答であった。しかも、 ギャチュンカン解禁は考えていな 達に再度目標の山の変更を迫る、 四ヶ国に登頂されたが、みな初登 社大隊)、アメリカ、イタリアの り登られた。その後、日本(同志 などを荷上げに使って、北東稜よ 者の出た場合、すぐ交替させる。 上げをやり、上部パーティに不調 頂上アタックは、十月十日より二 ローシェルパを減らして下部の荷 的があるのだが。)登山方法として ョンシステムで攻撃する。つまり ルート工作班、ルート整備班、荷 三名一パーティのローテーシ 休養班、残りの隊員は、 フランス隊々長ポレン・ビラー氏 同じダウラギリI峰を狙っている 闘志をかきたてられるのである の顔が、時々脳裏をかすめ、強く また、偵察の際に逢った、今秋

その人件費を節減しようと云う目 かつローシェルパの数を減らし、 個人負担金の総額をふやし、なお きなチームとなった。〔これには

こんでやろうと思うのである。

並びに、各加盟団体の皆様の御協 ギリI峰で果したく、実行委員会

力をお願い申し上げる次第です。

- を含めて、総勢十八名と云う大

ろしくさえなるのだ。そしていっ

そんな気がして、無性にそらおそ

この円高の不景気の時期に、多

そ、ひらきなおってしまって、残

る私の余力を駕籠かき作業にうち

だろうが、七二年ダウラギリ四

は、どうかと思われるむきもある 額の費用をかける八千米峰の遠征

夢を、今回どうしても同じダウラ 以来続いた、群馬岳連海外登山の

ダウラギリI峰遠征隊員決まる 公募者全員参加

して上毛新聞社長、佐鳥俊一氏が 究会員の希望者と、一般会員から 会の選考委員会において、検討さ 当り、ゼネラル・マネージャーと 分担は次の様に決まりました。 て、種々研究してきた海外登山研 実行委員会にて承認されました。 の公募による隊員により編成され れてきたが、去る三月二十四日の 尚、総指揮は再び、浜名会長が 隊員は、ダウラギリ1峰につい Z · M 佐鳥 俊一上毛新聞社 出 福田 鈴木 干木良一郎 弘行 章司東大山の会

登高会 沼

田

大間々

ミヤマ

協力下さい遠征隊資金集めに

後援者の立場で参加します。

登高会 集めを物品の販売で補なうべく実 ていますが、一番ヤッカイな資金 七月末出発を目ざして準備を進 私達の仲間十八名の遠征隊員

く次の物品の販売をしていますの 販売の一部利益を資金に当てるべ 行委員会が努力を致しております

一、ネパールバック ワッペン、バッチ

隊 貝 阿久沢 廣

ジャワー氏との会談の結果は、私

六 つ年、スイス隊により、飛行機

今回の遠征隊は、隊長、ドクタ

きかえられてしまっている、

くる人でなく駕籠をかつぐ人に置

私は、自分がいつの間にか、

ダウラギリI峰の初登は、一九

える。

れば、登頂は不可能ではないと考 日本人独得の粘り強さを持ってす ある。県岳人のこれまでの経験と ことを確信して、帰って来たので

たつもりである。

い聞かせ、自分なりに努力して来 分に合っているのだと、自分に云 して、わらじを作る人こそが私の 人、そのまたわらじを作る人。そ

深沢勇二郎

大間々 ミヤマ

の南東稜に目標をしぼり、許可申 それよりも、ダウラギリ1峰未登 で遅れを取ることは必定であろう。

請をすることにしたのである。

方式で、簡便方式の外国勢とせり 登山局と通って行く、複雑な日本

出来得る限り冷静に、謙虚に確か である。しかし私達は、この目で のない、きびしく重苦しいルート

なっていた。駕龍に乗る人かつぐ

副隊長

登攀リーダー

八木原圀明

ミヤマ

で御協力下さい

わざを、心に想いうかべるように

め、分析し、その成功の可能なる

駐ネバール日本大使館―ネバール れている山に、日山協―外務省―

合ったところで、許可取得の段階

世界の登山隊から虎視眈々と狙わ った。しかし、名峰とうたわれ、 まちがいなしだろうとのことであ ルは、ジャワー氏によれば、解禁 そしてその山、ガウリ・サンカー つける、もう一つの山があった。 峰と、それにも負けぬ程私をひき の私の頭の中には、ダウラギリI

氷のナイフリッヂの連続で失敗し

撃したが、それぞれ長い岩稜と、

ている。未だ人をよせつけたこと

いつの日頃からか、私は次のこと としなかった訳ではない。けれど ラヤ迄もその夢をふくらませよう レートし、はてはアルプス、ヒマ 岳人として、穂高や剣へとエスカ 山を持つ、群馬県に生まれ育った

総指揮

雄

倉

渕

田中

翔生

大間々

登高会

「私のヒマラヤ」今井通る

「K2登頂、幸運と友情の 広島三朗

登山道は、霧積から十六曲峠

ド型にそびえる山が浅間隠山であ

峠をこえる付近の右手にピラミッ

県道高崎〜北軽井沢線が二度上

タイムは一時間四十分

ここから北の斜面を下り、シャ

峠に向って約十㎞に亘って続いて

いるが踏跡は左右に別れコースと

せていただき技術の研鑚にはげん 同会の方々と多くの山行に同行さ 状のなだらかな登りで山頂に着く。

る。訪れる人も少なく静かな山行

たるコースがある。

浅間隠は、この外に南面の銅青

出れば約三時間半で薬師温泉にい クナゲ尾根から温川沿いの林道へ

山頂の展望は、すばらしく、眼

があるがコースが荒れている。 沢をつめればメンボー岩等の奇岩

の東約三㎞に龍ヶ岳(一、四一〇

この外に吾妻郡界には、浅間隠

が出来る。

・五)さらに笹塒山(一、四〇四 と静かで趣きのある山が続いてい

不十分なコースが多いので地図と

ちに居るのです。いまも新装備も

磁石レチタは必ず装備に加えテーバ

バックでかざりのない気軽な山行

長く山と付合って行きたいなどと

考えている小さな山岳会です。

持たない仲間ですが高望みせずす

宮がある。

ケ筝とトドメキの頭にそれぞれ里

指定されている。山頂には角落大

昨年自然環境保全地域として

原生林等標高の割りに秘境性がも

円錐型の山容と切り立った断崖

角落山 (一、三八二米)

と黒々と横たわる榛名山塊とのあ

めると、白く雪をかぶった浅間山

今高崎方面から北西の方向を眺

剣ケ峯~赤沢コル~女坂~山頂

当時、榛名高校倉渕分校に赴任し

2034

十二年の四月初めのことでした

ていた小林二三雄先生が松井田高

校に転任されることとなり、その

昭和53年4月15日 浅間隠山 犬泣かせ

度の展望台である。

登山コースは、二度上峠から約

る。この二つの山は、月並バス停

八ツヶ岳、北アルプス等三百六十 越連山、榛名、赤城、日光連山、 め四阿山、白根、横手、白砂、上 下に浅間高原が広がり、浅間を初

隠登山道入口がある。

ここは、問屋場と云われる所で

きく曲って小沢を越える所に浅間 六百米、倉渕側に入って県道が大

たどり、約一時間半で林道終点に からすぐ左手に登る。滑川林道を

を愉しんで下さい。

達する。ここから右手に見える中

山

岳 숲 紹

介

ら北に窪地を登りつめると岩渕山 道下に良質の湧水がある。ここか

と安高山のコルに出る。ここから

ば十分程で稜線のコルに達する。 ずかな踏跡をたどって山腹を登れ る。終点よりさらに北にのびるわ 腹に岩帯を持った山が龍ヶ岳であ

山を愛する少数の仲間が集まって

人口六千余の山間の小さな村に

電話〇二七三七八一三二一一、

倉渕村三ノ倉三○三倉渕村役場内

会員数二〇名・事務所一群馬郡

表・浜名 | 雄(会長

倉渕山岳会が発足したのは昭和二

いだをうめるあたりに、や、急峻 権現(大山祗神)の社があり、剣 9 さ

㎞登った所に鼻曲山がある。六里

中からいくつかの山を紹介して見 な地形を構成している。それらの 山々は、鳥川の侵食によって複雑

角落古火山に成因するこれらの

を囲む倉渕の山々である な山波がある。これが烏川の上流

渕山岳会

二時間半から三時間。倉渕月並上

りは高芝を経て白沢~男坂~山頂

は約三時間半のコースである。 この外バリエイションルートと

北倉沢(白沢支流)、北稜等があ して、角落東壁(相間川のつめ) 碓氷峠から県境尾根を北に約六 二、鼻曲山(一、六五四米)

時間半、二度上峠より二時間半の 的な山だが倉渕側は深く切れ込ん が原から見ると、なだらかな牧職 行程である。 十分である。碓氷峠見晴台より三 三、浅間隠山(一、七五六・六米) 鳥川の源流をかかえてい 長日向より一時間四

ジの茂る急な尾根を登りつめると

りで右に折れ、や、下りぎみに進 る。ドウダンツツジ、三ツ葉ツツ のば浅間隠西南稜の登山道に通ず

岩渕山を巻く様に進み基部のあた

浅間隠とその周辺の山

浜名会長の発案で山岳会を造って

透別の席上、山仲間が意気投合、

027378

ここから高度差二百米の尾根を八 厳しさに感動し山を心の友として 考えていましたが自然の美しさや 村民の多くが山を生活の場として 岳連へ加入しもっと多くの仲間と とになりました。 たしかな山登りを学ほうと云うこ その頃の倉渕村は、

百米程登りつめればそこが龍ヶ岳 積極的に自然に親しむゆとりも技

南峯に達し、そこから上は、草原 りに下降し一、二五〇のコルを経 て笹塒山へと至る稜線はさらに東 界稜線は東のピークを越えて北よ ながら県道高崎中之条線の大沢峯 つながる二ツのピークがあり、郡 山頂である。山頂は平坦な尾根で に向ってのび十数個のコブを越え Bが合流して倉渕山岳会が生れた のです。髙崎山岳会の紹介で岳連 即ち青年団山の会と分校山岳部の 術もありませんでした。自信のな たがこの間黒川篤代表を初めとする の仲間入りをさせていただきまし いまま低山を歩く二つのグループ

に紹介してみたが登山道の整備が らずで月並のバス終点に降ること って高度を下げれば約一時間半た 山頂からは南にのびる尾根をたど して不鮮明な個所が多い。笹塒山 以上倉渕の山のいくつかを簡単 とを考えている仲間が村のあちこ してこれと云って目立つ実績もな ません。あれからいつの間にか しかし少数なからもいつも山のこ 十年が過ぎてしまいました。 だ日々のことを忘れることが出来 いままにほそぼそと続いています

出物卸価格に 引 株式 会社 丸

御一報下されば伺いま

高崎市上中居 2 1 3 8 0273 - 52 0970代 烏川上流 割烹旅館

マスが泳いでいます。

ちゃんや、それ

つをかけた赤

を見て笑ってい

のお姉さん。 ただけの子守中 きて教えてくれ

すよ。」と走って んじゃないんで うやって食べる ですがこれはそ たのに、「失礼

た男の子。だっ

こしたら、オシ

(3)

くれと言った子

々が持ちあわせなかった大切なも

あめや菓子を

もお金をくれと

のの一つである。

晴れわたった大空に

大きな振幅をくり返す

に七名が参加した。

||月十日、前橋山岳会員の広

ち切られた。

女屋等志

合わせた県海外登研会員(中隊目 行方不明になった。現場近くに居 から出て、突風にあおられ滑落し るため飲料用の雪をとりにテント 機し救助に向った四人が帰ってく

五名)が捜索したが連日の猛吹雪

のため捜索は難行し、やむなく打

女子雪氷クラブ

安

中

秀

呂 くれた。公園中を走りまわりなが さんの思いが去来していた。 るはずなのに、言葉がわからなく また観衆が笑う。しっかり見てい 薬売りが額に汗して奮闘中である。 とあがる。近づくと人垣の中で、 マンズの公園に寝そべって、 色が視界から外されるんだ、カト あどけない幼児が一緒に遊んで 公園の一角に大きな人垣があっ 私一人が笑えなかった。 時々、みんなの歓声がワァー 後五日でこの景 たく をして、ドサッと背中から落ちた 笑って、 途端、周りの子供達がワイノへ下 ら、喜んでもらおうとトンボ返り やっぱり子供達の方が上手だ。内 手だと囃したてる。それならばと 心おもしろくないのだが、ニッと むきになって次の技を披露する

う。どうも大人気無い。 わりあいがたくさんあった。 人々との楽しい(今になれば 聳えたつ山々の印象と同じ位に 石垣に腰かけた傍に来て、風車 「うまいね!」などと言 ていた女の子。 を得意そうにし 手が塞がってい いたミカンだっ て、つい口で剝 係

さの表現のこと等が印象深い。私 **令層の高いこと。そしてルクラ離** と。同じトレッカーでも比較的年 した。夫婦で来ている人の多いこ から、いかにもさりげなく振る舞 は自分の気負いを知っていた。だ 陸の時見せた、あの大仰なうれし

ているのだ。むやみに物品をばら ある私達だって責任の一端を負っ もともとそういうことは外国人で 聞いていた程せこくはなかった。 手を出した子もいたけれど、 話に

思うのだけれど、会えばどうして 本人で徒党を組まなくてもいいと 今考えると、もっと一人になっ よその国に行って、わざわざ日 寄り集まりたくなってしまう

私の中のヒマラヤ

とぎすまされたあの峰が

根経由の一泊

ティリツォ――あこがれの湖 ティリツォの方へ流れていた

シンセン沢で雪崩に巻き込まれて

瀬芳弘さん(二六)

かく

マチガ沢

小さな雲きれだけが

てくるのを発見したのは目前だっ さまった時、同行者が近くにいた 場所で音も無く雪崩が二人に向く S字となった上部の見通しの悪. 山の家に集合し、翌十二月十一 同夜、出動命令が発せられ、 跡を捜索したが発見できなかった 走った。雪崩が通過し、白煙がお た。二人は下にあった岩場の陰に 行方不明となった。広瀬さんは はずの広瀬さんがいないので雪崩 登山中、十一時五十五分頃、 舞う天候の中を同行者をトッ 同行者一人とシンセン沢から東尾 二日の計画で小雪の

山の好きな男のセ

分頃、沼田山岳会員永井克己さん

(二十) は同僚一人とテントで待

が救助に向った。 の沼田山岳会四人(内隊員) 女性が滑落したため同方面登山中 頂付近で神奈川の風山岳会所属の

同日一七時四



県庁通り 前橋ビル ☎0272-21-1678代 卸部 前橋市間屋町 ☎0272-51-1000代 '78年山用品は **(*** <

山とスキーの店

伊勢崎市中央町18番8号 0270 - 25 - 0272岳連会員特別価格にて奉仕させていただきます

思った。 しかたないので、ジェスチャーで 説明してやると、彼は「オー」 畤 だったらしいこと。 でいたのに相手はもらったつもり ポーターにヤッケを貸したつもり 物を出されたこと。風邪をひいた らったこと。食べたい物があって かけたのに関係ない道を教えても 失敗もあった。リンゴを買いに出 肩をすくめて朗らかに笑った。 笑って応待してくれたが、別れる 味のわかるはずもなく彼はいつも なり禿げていたので、私達は彼を しになったおじいさんがいた。か からず興味を持った。 ってみせる。あの大らかさに少な まいている日本人を見ていてそう 「ミスター・はげ」と呼んだ。意 | 所懸命説明したのに幾度も違う 行動中多くの西欧の人達にも接 言葉、小さくて大きいもの。我 言葉の不自由の為にいろいろな エベレスト街道ですっかり仲よ 「はげとは何だ?」と聞く。 ۲ ネパールの人達の中へ入っていけ ではないんだから……などと、 ろう。いや、もうここへは足を運 がら考えた。またすぐ来られるだ 愚かしくて、重度の自己謙悪にか けると信じて疑わなかった自分が とが一番の心残りだ。ひたすら行 が湧いてきた。 目を見せつけられて、新たな闘志 少したがの緩んだ自分が後めたか 緊迫感の漂うものなのかと感じ、 の時私は、遠征隊とはこんなにも リI峰の偵察隊と一緒だった。あ の時はあれで精一杯だった。 ばよかったなどと後悔するが、 疎かになるから)どん~〈貪欲に て(二人以上だと、つい日本語だ だって決して楽にやってきたわけ べないかも知れない。今度の山行 コシ畑の向こうの白い山を眺めな かった。帰路のマルハでトウモロ けの話が多くて、周囲を見る目が ティリツォ湖に行けなかったこ 私達はしばらくの間、 頭上で木の葉がカサックへする ソバ畑が波うつ トウモロコシの穂先がゆれる ニルギリ峰を目前に拝して 何よりも諦めきれない私の心が 「いつか私も――」輝いた タウラギ のが精一杯だった。 れた。でも真剣だった。くり返す 沢左俣の左で遺体となった金根さ がら感じている次第である。 あきらめないこと。欲しいものの ことは自分で自分の可能性を限定 しかったことや、楽しかったこと レッキングは全て終了した。うれ くなった岩場から転落死したもの 発見できなかった。六月三十日の 届出があり六月二十八日、六月二 夜までに帰らないため松井田署に 靖さん(三三)が日帰り予定で国 してしまうことである。何かをし い。生きていく過程で一番こわい し、決定的な挫折感も味あわせら と思われる。この捜索と遺体収容 搜索の結果十一時四十分頃、 民宿舎「裏妙義」を出発したが同 一つを手に入れた今、おぼろげな ようとする時、大切なのは、まず に加えて多くのいやな思いもした んを発見。原因は、雨で滑りやす -九日と裏妙義一帯を捜索したが 山登りをする時だけとは限らな 無秩序で無計画であったが、 六月二十七日、裏妙義山で金根 キリ/\心をかきたてた 、桶木

現場から約二百m下の雪の中(深

を発見し、収容した。 まうつぶせになって死んでいるの さ一m)でリュックを背負ったま

一月五日、北アルプス槍ヶ岳山

早朝から雪崩跡をスコップで除雪

しながらの捜索をおこなった。十

時三十分頃、広瀬さんは、事故

昭和53年4月15日

洞、イグルー、スキー利用の雪洞 ウェーブ下へとそれぞれ着き、雪 を開拓。富士見峠東方のマイクロ

などに、それぞれの班毎に工夫を

高体連登山部では、三月四日伊

にエベレスト登頂を果した加藤保

から五月七日までの間、登山禁止

| があるが製作段階で堅牢にボート に亘る搬送となると破損すること

も苦にならない。しかし、長時間 価であることなどから使い捨てて 現場で製作できること、材料が安 のに大変な労力が必要である。 長さの面で事故現場まで運搬する チック製のスノーボートは、重量 がら下降しました。市販のプラス る雪上搬送技術習得の訓練をしな

トタン板を利用してのボートは

|る簡易スノーボートと柴ゾリによ

り、大穴への沢筋をトタン板によ |トバレースキー場から高倉山へ登

三月十二日、谷川岳南面ホワイ 救助隊冬季訓練実施 を仕上げることによりカバーでき される

できる便利さがあるが、トタンと る。柴ゾリは、夏冬間わなく搬送

新しい指導員誕生

ため、停止から動作を始めるため の間に雪が入り、付着してしまう 違って軟雪の場合に滑走面から柴 た五二年度の公認指導員認定申請 先に日本山岳協会へ申請してい

横にすべれる本当のスキーの良さ

も工夫がみられ広大な斜面での縦

近で合流し、別動隊が記した赤布 八日、両隊はマイクロウェーブ付 こらし、雪中露営を体験した。十

勢崎工業高校で開催された本年度

男氏を招き、その講演と中国のエ

となっていますので、連休中に入

ますので、春山合宿などの予定の いよう、安全パトロールを実施し 山する人達が危険地帯に立入らな

無い人は一日、残雪の山麓を歩い

てみることも楽しいと思います。

協力をお願い致します。

会報バックナン

を頼りに田代原~スキー場へと下

る。昨年より装備、山用スキーに

を体験出来た。なお県岳連から多

端を左右に振って付着面の雪を切 には、柴ゾリの下側(足側)の先 ってやらないと動かない。トタン 事務局に届き、該当者に送りまし 認定の証書、バッヂ、ワッペンが が、とどこおりなく済み、過日、

> 師としてきていただいた。 忙な日程をさいて田中成幸氏に講

六)におかれることとなった。

救助隊結団式

昭和五十三年度の結団式が三月

容も深く新聞として読み捨てるだ 年四回の発行数であるためその内 十四号の発刊まで続いてきました。

群馬岳連報「嶺呂」もどうやら ーの頒布につい

(TELOITO LIE-EI

降雪と深雪のラッセルに悩まされ れる。当日は、朝は寒風、午後は 搬送は、便利な用具の一つと思わ 板によるボートを使用しての雪上 茂木貫太郎(登高会)

ながらの厳しい訓練でした。 (文責 女屋等志) 御活躍を祈ります。

・松田竜彦(前橋)・大橋良雄(境 田)·下平昌弘(倉渕)·塚越寛(倉渕 水野金太郎(沼田):宇田川邦司(沼 全員二種指導員です。 た。新しい指導員は次の方々で、 周辺で、教師・生徒一五九名を参 リーダー講習会 三月二六~二九 日同じ尾瀬あやめ平・富士見小屋

順不同 集して行われ例年より多人数であ ったが、整然とした実のある講習

雷が多く、きびしい自然の中での 富士見小屋に向った。例年より残

生活技術の習得、体力の養成、チ

平、白尾山方面で行われ、二八名 六~一八日の二泊三日で、あやめ 冬山指導者講習会 本年は二月 高体連行事から かったと思う。地図とコンバスを

月末の生徒対象のリーダー講習会 術の向上であり、他の一つは、三 習会は、一つは顧問教師の登山技

交流会などがもり込まれた講習会

であった。帰りは、前日の低気圧

の顧問教師の参加があった。本講

活用しての現在地の確認の練習

小屋内での各種のミーティング、

ームワークの養成など成果は大き

じきの着脱・歩行を訓練したのち

会が出来た。生徒はおもに輪かん

ました。 昭和五十三年度隊員紹介

喜、相談役・田中成幸、隊員・塩 隊長・西山年秋、副隊長・中原正 隆 (沼田) 松永幸雄 (〃) 加

藤定男(〃)藤塚 満(〃)阿久 沢 廣 (登高会) 丸山正捷 (〃) 調査として奥利根地域の学術調査 が行なわれてきましたが、その踏 良好な自然環境を有する地域の

〃)阿久沢芳雄(〃)小泉俊夫 茂木貫太郎 (〃) 新井邦光 (高崎 〃) 千木良一郎(〃) 森田春樹)女屋等志 (ミヤマ) 谷 弘行 刊の運びとなりました。第一刊か 右岸地域の調査を終えてⅢ巻の発 利根源流地域に続いて今回の利根 査も第一回利根左岸地域、第二回

前橋)都丸和芳 (〃)下境和雄 岡) 松原幸雄 (〃) 須田久男 (桐 峰)茂木 稔(〃)臼田光雄(藤 〃) 湯沢好夫(〃) 石原重喜(独 生)阿部 源 (大間々)福田純 (*)能美沢栄三(伊勢崎)仁科 貴重な資料になることでしょう。 の自然環境保全施策推進の上にも する全貌がここに解明され、今後 かった奥利根地域の自然環境に関 て科学的調査のメスが入っていな ら併せてみると、今まで秘境とし

雅司(〃) 桜井 進(太田)

別動隊に分れ、本隊はほとんど夏

尾方面に向う。田代原で、本隊、

ル付スキーの着脱、歩行訓練、十 瀬戸倉スキー場で、輪かん、シー 目的をもっています。一六日は尾 のコース等の下見をかねるという

イクロウェーブ~田代原のルート あったため、より安全な小屋~マ トが、ブロックの崩壊の可能性が の通過で、あやめ平下を通るルー

七日早朝、宿を出発、あやめ・白

道を通り、富士見小屋上部へ。

田代原から北東にルート

がメンバーとして加わった。 岳連から石井謙一郎・田中成幸氏 協議会が本講習会の実情を視察 として迎え、また高校登山適正化 県岳連から、高橋啓太郎氏を講師 をとり、全員事故なく帰着した。

新年度役員決る

てK2登頂者広島三朗氏とポスト 去る四月七日、県民会館に於い 映画会開かる (文責) 女屋等志 す。谷川岳の危険地域は四月一日 中の安全パトロールが実施されま 連休中の谷川岳 毎年の行事となった、五月連休 安全パトロールに 参加しよう

れ次の新役員が決まった。 総会において、役員の改選が行わ 副委員長 大谷 正也 ベレスト登頂の記録映画会を催し ました。「高みへの誘い」と題し たパンフレットは各山岳会へ配ら

中央町三—八伊勢崎工業高等学校 なお、高体連事務局は伊勢崎市 れましたが仕事を終えて各地から

くに無事終了しました。 集まったためか開演が遅れ十時近

のドラマ、八、○○○米峰を登頂 拶、遠征隊員の紹介等も折込まれ じめ、講演の間には浜名会長の挨 ラギリI峰の計画概要と挨拶をは 講師の貴重な体験談に人間と山と 開演と同時に田中隊長よりダウ

二十八日夜、体協会館で行なわれ することの厳しさを知ることが出 来、意義ある集いとなりました。 学術調査報告書 る様お推めします。ここで毎号好 けでなく岳連の記録として保存す 紹介してみます。 評であります「かくされた山」を

十号 袈裟丸山 裹妙義五輪岩 皇海山 (岳連総会特集 富士重工 松井田

鳴神山とその付近 玉原湿原と迦葉山

藤岡山岳会

沼田

だきたいと思います。 にお分けいたします。一部五十円 (送料別) 申込先 〒三七〇 残部が若干ありますので希望者

豊富であり資料として残していた

なお創刊号から四号までも内容

十四号 倉渕の山

利根川本流

☎○二七○七(四)三八一七 稿

)| 佐波郡境町五六四 川辺柳

送付先右に同じ。